

## 令和5年度生野区区政会議 第1回全体会

### 1 開催日時

令和5年7月27日（木） 19時00分～21時08分

### 2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

### 3 出席者

（区政会議委員）19名

船方委員、三木委員、宮崎委員、加藤委員、永松委員、小出委員、橋野委員、  
藪本委員、古本委員、北口（英）委員、柴田委員、大藤委員、北口（充）委員、  
川口委員、塚本委員、廣川委員、川中委員、山納委員、森本委員

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（大阪府会議員）なし

（その他関係者）5名

田中様、多田様、和田様、新井様、伊藤様

（生野区役所）16名

筋原生野区長、小原副区長、近藤教育委員会事務局学校環境整備担当部長兼生野  
区役所こども未来担当部長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠  
まちづくり推進担当課長、松村安心まちづくり担当課長、中篠地域活性化担当課  
長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部  
学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局  
指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、山崎保険年金担当課長、  
松藤生活支援担当課長、小川保健福祉課長、森子育て・地域福祉担当課長、宮城  
窓口サービス課長、杉本区政推進担当課長

### 4 委員に意見を求めた事項

（1）令和4年度生野区の取組みの振り返りについて

**資料1** 令和4年度の生野区の取組み振り返りについて

**参考資料1** 令和4年度の生野区の取組み振り返りについて（説明スライド）

（2）各部会報告について

**資料2** 令和5年度第1回各部会からの報告について

（3）その他

**参考資料2** 年間スケジュールについて

**参考資料3** 令和5年生野区区政会議委員改選について

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和5年度生野区区政会議第1回全体会を始めさせていただきます。

本日は委員の皆様ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。

私、事務局の生野区役所企画総務課の杉本と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の出席状況、傍聴及び会議運営会議録の作成についてご報告いたします。

本日の会議は委員定数30名に対しまして、22名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席ということで、有効に成立してございます。また本日の傍聴者は2名となっております。

続きまして、条例第8条第1項に基づく市会議員の皆様のご出席について、五十音順でご報告申し上げます。

木下誠議員です。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

武直樹議員です。

○武議員

こんばんは。いつもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

原口悠介議員です。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。いつもありがとうございます。

○杉本区政推進担当課長

なお、山田議員におかれましては、公務の都合で途中にてご退席されますので、よろしくお願い申し上げます。

同じく関係者として、歴代の議長等務められました皆様のご出席についてご報告申し上げます。

田中照章様です。

○田中様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長  
多田龍弘様です。

○多田様  
こんばんは。よろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長  
和田友祐様です。

○和田様  
こんばんは。お願いします。

○杉本区政推進担当課長  
新井光淑様です。

○新井様  
こんばんは。よろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長  
伊藤廣美様です。

○伊藤様  
こんばんは。よろしくお願ひいたします。

○杉本区政推進担当課長  
以上でございます。

なお、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等が公開されます。後日事務局にて会議録を作成しまして、区役所のホームページ等で公開いたしますので、録音や撮影についてご了承のほどお願い申し上げます。

続きまして、本日の区政会議の趣旨と配布資料についてご説明させていただきます。

本日の全体会では、昨年度の生野区の取組を振り返り、その成果や課題について、委員の皆様にご意見やご議論いただき、次の取組や次年度の予算へとつなげていきたいと考えてございます。

続きまして、本日の資料についてご説明申し上げます。

左肩に当日用とございます「令和5年度生野区区政会議第1回全体会」の次第をご覧ください。

本日の会議資料を記載しております。資料がおそろいでない場合は、後に事務局からお持ちいたします。

まず、資料1といたしまして、事前に送付してございます「令和4年度生野区の取組み振り返りについて」というA4横の資料がございます。

続けて、本日配付の資料でございます。

まず、参考資料1としまして、前面のスクリーンにて投影しますスライドを印刷したA4横の資料がございます。また、同じく資料2としまして、先月に開催いたしました各部会でいただいた「主なご意見等（要約）と区の考え方、対応」というA4縦の資料がございます。

そして参考資料2としまして、「区政会議の年間スケジュール」、参考資料3と

しまして、「令和5年生野区区政会議委員改選について」というA4縦の1枚ものの資料がございます。

最後に、次第には書いてございませんが、区政会議委員の皆様の名簿、そして区政会議全体会に関するアンケート用紙、マイナポイントのチラシと生活支援サービスのリーフレットを置かせていただいております。アンケート用紙については、お手数でございますが、お帰りまでに記載いただきまして、机の上に置いていただきますと幸いです。

資料については以上になってございます。

それでは、これからの進行は三木議長によりしくお願い申し上げます。

○三木議長

皆さん、こんばんは。議長の三木です。

ただいまから、令和5年度生野区区政会議第1回全体会を開催いたします。

区政会議は、区民が主役として、地域運営に当たるために、地域の課題解決のため、どう取り組むべきか。また、課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する趣旨の会議となります。よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って、意見を交換し、議論を深めるという姿勢で積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催に当たり、筋原区長からご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆様、こんばんは。生野区長の筋原です。

本日はお仕事やご家庭のご用事で大変お忙しい中、また連日の猛暑の中、本当に今日暑かったですけども、本当にお暑い中、生野区の区政会議全体会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様方におかれましては、先月開催しました各部会にもご出席をいただきまして、生野区に対する熱い思い、また、生野区を良くしていくための様々な貴重なご意見を頂戴したところでございます。

本日は、令和4年度の取組の振り返りと、各部会からのご意見等を報告させていただきます。部会同様に、この全体会におきましても忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政につなげていきたいと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、議事に入ります。

お手元の会議次第に沿いまして、議事1「令和4年度生野区の取組みの振り返りについて」、区役所からの説明の後に続けて議事2「各部会報告について」ということで、先日行われました3つの部会について、それぞれの報告に入ります。

報告の順番につきましては、部会の開催日順で、くらしの安全・安心部会、こどもの未来部会、まちの未来部会の順にお願いします。

それでは、まず、区役所からの説明をお願いいたします。

## ○武田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。企画総務課の武田と申します。

それでは、「令和4年度生野区の取組み振り返りについて」ご説明させていただきます。着座して説明させていただきます。

前面のスクリーン、併せてお手元の参考資料1をご覧ください。詳しい内容については事前に送付しています資料1にあります。こちらはそこから抜粋したのになっています。中身につきましては、大きく3つの分野、安全・安心、子育て・教育、そしてまちの魅力と、それぞれの部会でお示ししたものを合わせたものになっております。

お時間の都合上、説明につきましては、主に現状と課題、そして皆さんに考えていただきたい論点に絞って説明をさせていただきます。

まず、区民の皆様の生命、身体に係るとても重要かつ緊迫したテーマであります安全・安心の分野からご説明いたします。

防災・防犯の取組として、生野区には、老朽化した住宅、長屋や市場に流通しない空き家が多く、細街路が多いため、地震や火災等による大規模災害のおそれがあります。住民の高齢化や土地建物の権利関係が複雑なことから、オーナーさんによる自主的な建て替えが十分に進んでいないことも挙げられます。また、高齢化率も高く、高齢者を狙った特殊詐欺が発生しやすい状況にあります。

そこで、これらの課題に対しまして、ご覧のように、これまでも防災・防犯に向けた様々な取組を実施してきました。地域の自主防災活動を支援するために地域防災リーダー研修、地域防災マップの作成支援、広報いくのでの防災への備えに向けた周知、北鶴橋地域でモデル実施しました個別避難計画の策定、空き家や老朽住宅への対策として空き家活用株式会社との事業連携協定やいくのアキカツカウターの開設、区全域一斉パトロール、地域安全防犯カメラの設置、ガチメン出前講座、広報いくのでの特殊詐欺防止に向けた周知などについて実施してまいりました。

これらの取組を振り返ってみますと、災害時に自助、共助がしっかりと機能するための自主防災体制をどう強化していくか、少子高齢化が進む中、自主防災体制を支える担い手をどう確保していくか、空き家オーナーへの啓発や指導など、放置された空き家や危険な空き家が増えないようにどうすればいいか、街頭犯罪の防止に向けて、地域住民や警察等関係機関といかに一体となって取り組むか、そういった点が論点として挙げられます。

続けて、地域福祉の取組です。

生野区では、これまでも各種検診の受診率は低めで、大阪市全体の平均の受診率よりも低くなっています。最近発表された国の調査では、生野区民の男性の平均寿命が全国でワースト3という結果が出ました。また、高齢化が進み、独り住まいの高齢者が増えています。さらに、児童虐待や高齢者虐待といった深刻なケースの相談が年々増えており、ケースの増加によって十分な対応が困難になっています。

そこで、これらの課題に対しまして健康づくりや地域における身近な見守り、支え合いに向けて様々な取組を実施してきました。いくみん健康体操などの健康づくりの取組、がん検診の受診啓発、ご近助パワフルサポート事業、高齢者を地域全体

で見守る仕組みであります地域包括ケアシステム、生野区こども地域包括ケアシステムによる虐待の早期発見や課題解決に取り組んできました。

これらの取組を振り返ってみますと、住民の健康意識をいかに向上していくか、公的な福祉サービスだけではなかなか解消できない多様な課題に対して、地域の担い手をどう育成していくか、高齢者や障がい者、子ども、保護者など、課題を抱える方に対して支援するネットワークをどのように広げ、機能させていくか、どのように持続可能な仕組みにしていくか、そういった点が論点として挙げられます。

続けて、人権・多文化共生の取組ですが、様々な人権課題がある中で、生野区の特長ともいえる多文化共生に焦点を当てることとしています。

生野区は外国人住民の方の比率が全国一で、5人に1人が外国にルーツを持つ方です。また、その国籍や地域も約60にのぼり、まさにグローバルなまちといえます。一方で、やはり生活していく上で言葉の壁、文化の壁、生活習慣の壁、様々な壁があるかと思います。そのため、外国人住民の方が日頃から必要な情報を得るためのハードルや地域住民の一員としてつながりを持つ機会が少ないのも事実であります。

そこで、これらの課題に対して、ご覧のように、やさしい日本語をはじめ様々な取組を実施してきました。外国人の方だけでなく、子どもやお年寄りなど、全ての方に分かりやすく伝えるやさしい日本語、元御幸森小学校跡地にオープンした「いくのコーライブズパーク（通称：いくのパーク）」では、多文化共生の拠点として、食と学びのフェスティバルを開催し、約4,000人の方が来場し、大きなにぎわいが見られました。

これらの取組を振り返ってみますと、日常から災害時に至るまで、外国人住民に必要な情報をいかに分かりやすく届けることができるか、外国人住民が地域コミュニティに参加しやすい環境をどのようにつくり、相互理解を深められるか、ひいては、外国人住民が日頃から安全に安心して暮らせる環境をいかにしてつくっていくか、そういった点が論点として挙げられます。

次に、子育て・教育に関する分野であります。

前提となる大きな問題として、生野区は全国同様に少子化が進行しています。大阪市24区の中でも年少人口の割合は低く、2045年には市内ワースト2になると見込まれています。区民の方へのアンケート調査により、安心して子育てできる環境が整っていない、子育てが地域や社会に支えられていないと感じる方が一定割合存在しています。また、育児不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらずに、孤立化によって様々な問題へと発展するおそれがあります。

そこで、これらの課題に対しまして、ご覧のように、これまでも子育て支援のための様々な取組を実施していききました。広報いくのによる子育て相談、支援情報の発信、絵本への親しみやすさを通じた親子の交流や子育て交流イベントの開催、生野区こども地域包括ケアシステムによる虐待の早期発見や課題解決に取り組ましました。

これらの取組を振り返ってみますと、安心して子育てができるよう子育て支援情報に容易にアクセスできる環境をどうつくっていくか、孤立しがちな子育て世代などが気軽に相談や交流できるような機会をどのように提供していくか、地域ぐるみ

で子育てが支援できるようなネットワークをどのように広げていくか、そういった点が論点として挙げられます。

続いて、教育支援・環境づくりの取組です。

少子化やグローバル化が進む中で、子どもたちに求められる教育環境も変わっていきます。子どもたちが自ら学ぶ自主学習習慣を含めて、学校外での学びの機会が不足しがちです。また、学校の取組だけでは、子どもに多様な学びの機会を十分に提供することが難しい状況にあります。

そこで、これらの課題に対して、教育環境づくり支援のための様々な取組を実施してきました。生きるチカラまなびサポート事業、民間事業者を活用した課外授業「いくの塾」、IKUNO未来教育ネットワークでは、企業や団体の協力により、キャリア教育や体験活動の充実、学校支援を推進してきました。

これらの取組を振り返ってみますと、これからの変化の激しい時代で子どもたちの生きる力をどのように育成していくか、そういった点が論点として考えられます。

最後に、まちの魅力に関する分野となります。

先ほども紹介しましたが、生野区は全国同様に少子化が進行し、生産年齢人口の割合も同じく減少が見込まれています。人口減少や高齢化、それに権利関係の複雑も伴って空き家が増えています。経済面で見ると、製造業の盛んな生野区でもその数は減少し続けています。

そこで、これらの課題に対して、ご覧のように、これまでも区の魅力向上、地域活性に向けて様々な取組を実施してきました。生野区の魅力でもあります、ものづくりの技術を子どもから大人まで幅広く知ってもらうための様々なイベントを行っています。空き家活用株式会社と事業連携協定を締結し、いくのアキカツカウOUNTERを開設しています。学校跡地活用ですが、元御幸森小学校では、食を中心とした複合施設として貸付けを開始し、他の学校跡地もインターナショナルスクールや専門学校といった事業者が決定し、この4月から貸付けが始まっています。持続可能な公共交通ネットワークの維持を図るために、いまざとライナー、オンデマンドバスの社会実験が行われています。

これらの取組を振り返ってみますと、生野区のまちが有するソフト・ハードの多様な地域資源を生かし、あるいは新たな資源を発掘し、組み合わせ、様々なシナジー効果を生み出すにはどうすればいいか、生野のまちにヒト・モノ・富が好循環し、新たな担い手が生み出され、それぞれの持ち場が広がっていくにはどうすればいいか、そういった点が論点として挙げられます。

最後に、シティプロモーションの取組となります。

生野区には、ソフト・ハードの両面で多様な魅力資源があります。区民の方へのアンケート調査では、生野区のまちが多彩な魅力あるまちと感じると回答した区民の割合は約60%となっています。さらに、生野区のまちに愛着を感じると回答した区民の割合は約80%近くに上ります。一方で、生野区が様々な人が訪れたい、住んでみたいまちだと回答した区民の割合は約50%になっています。これは、区民の方の回答なので、区外の方の意識調査ではありませんので、あくまで一つの目安となります。

そこで、これらの課題に対しまして、ご覧のように、これまでも区の内外への様々なプロモーションを展開してきました。区の広報紙やSNSでこのまちの魅力を紹介したり、イベント情報や生野区の魅力につながるコンテンツを発信する公民連携でつくりました情報発信サイト「いくのぐらし」もあります。

これらの取組を振り返ってみますと、生野区のまちに訪れたい、住んでみたいと内外に認知されるにはどうしたらいいか、生野区が持続可能なまち、発展していくまちになるにはどう進めていけばいいか、さらには2025年大阪・関西万博の開催というビッグイベントを生野区のまちの活性化にとってのビッグチャンスとして捉え、そのチャンスを生かすにはどうすればいいか、そういった点が論点として挙げられます。

以上、大きく3つの分野における課題と、これまでの取組、成果を振り返った上で考えられる論点を挙げさせていただきました。

区役所からの説明は以上となります。委員の皆様よろしく申し上げます。

#### ○三木議長

それでは、続けて部会からの報告に入ります。

最初に、くらしの安全・安心部会から報告をお願いいたします。

#### ○川中委員

それでは、くらしの安全・安心部会から報告をさせていただきます。

本部会では、3つの領域が扱われております。防災・防犯、地域福祉、人権・多文化共生、この3つです。

防災・防犯につきましては、今先ほどの説明でもありましたけれども、人材確保で課題があるというところでの議論が行われました。広報活動の強化、学校との連携などの必要性が指摘されました。防犯では、高齢者の見守りにつきまして、鶴橋包括での事例が紹介されました。こうした各地域での工夫について、他の地域との交流などの機会がより充実していくとよいのではないかという意見が出されました。また、子どもの安全・安心の観点から、子ども向けの啓発や防犯カメラの活用なども指摘されました。

2つ目の領域であります地域福祉についてですけれども、これも先ほど紹介ありましたように、健診率が低いという課題が取り上げられ、委員間でいかに健診を受ける必要性の理解を広げていくのかといったことで意見交換がなされました。健康づくり活動につきましては、既存の取組に加えまして、ニュースポーツであるとか、日常生活の中での運動を繰り広げていく事例が紹介され、こうした事例も他の地域で共有されていくとよいのではないかという意見が出されました。

また、高齢者だけではなくて、子どもや若者、あるいは30代、40代の人々にも福祉サービスや生活支援サービスの情報が行き届いていく、そうしたことも必要ではないのかといった意見も出されました。

3つ目の領域であります人権・多文化共生につきましては、外国人住民の方々への情報提供、外国人住民の地域参加や生活支援、そうしたことを推し進めていくためには、関係者や支援者のネットワークの形成が必要ではないのか、こうした意見が出されました。また、日本語学校との連携によって地域情報を多言語化している



事例も紹介されました。日本語学校との連携については、まだまだ可能性があるのではないかと議論がなされました。他には、災害時避難所における多文化・多言語の対応を進めることも指摘されました。やさしい日本語の学習機会の拡充など、日本語を母語としていたり、日本文化を母文化としている人々が多文化共生への学びを進めていく、あるいは対応を進めていくということの必要性も指摘されました。

以上、簡単ではございますけれども、くらしの安全・安心部会での議論を紹介させていただきました。詳細につきましては資料をご清覧ください。

#### ○三木議長

ありがとうございました。続いて、こどもの未来部会から報告をお願いいたします。

#### ○森本委員

報告を簡単にさせていただきます。

1つはオンデマンドバスですね。まちの未来部会さんともリンクしてくるんですが、親子連れの利用がずいぶん見られてきているということで、ここの利用促進がなされてるっていうのは、親子にとってもいいのかなっていうことが出されていきました。今後は子どもたちも利用ができていくような宣伝の方法、QRコードを小さな名刺カードにするとかというようなことができたらいいいのかなということが1点。

また、広報いくので外国の方々の紹介等々があって、非常に生野区のまちがどんなふうに通っているのかっていうこともすごく分かりやすくなったなといううれしい声もありました。

生野区にはたくさんの方々の外国人の方、障がい者の方がたくさんいるんですが、子どもたちが学校にいても自然と出会っているというのが、すごく子どもたちにとってもいいことだな、そこから刺激を受けて、海外への留学等々というようなこともあるということのお話もありました。

物づくりなど含めて、生野区は本当に宝物がいっぱいで、ブランドを上げていきたいよねっていうようなうれしいご意見なんですが、一方で、通学路の安全のこと、ここについては区の行政もそうですし、地域もそうですし、また、親がルールをちゃんと教えていく、こんなことも必要なのかなということが1点。

それから、子どもたちの学力アップは大事なんだけど、それだけでなく様々な体験ができる、そういうこともやっぱり生きる力としては大事なんじゃないかということ。公園の活用ということで、子どもたちがボール遊びできる場所って何かないのかなっていうようなこと、それから、中高生の子たちが相談に行く場所とか、親が相談に行く場所、もちろん子育て支援センターとかはあるんですが、なかなか相談に行きにくいというようなことがあるので、そういう相談の場所が何だかうまく分かるようになればいいのかなという意見が出ていました。

総合したところで、子育てや教育っていうようなことの支援を充実することで、この人たちが大人になって、また生野区で子育てしたい、そんなふうに通ってくる生野区にしたいなというようなことでこの日は終わりました。雑駁ですが以上です。

○三木議長

ありがとうございました。続いて、まちの未来部会から報告をお願いいたします。

○山納委員

まちの未来部会です。6月16日にこちらで行いました。委員の方々と3巡する議論をさせていただいて、まちの魅力を高めるシティプロモーションということに関していろいろと意見を出させていただいています。

まちづくりには、やりたいからやるっていう活動と、やらなければいけないからきっちりやるっていう活動があるよねと。まちの未来部会っていうのは、特にこのやりたい、このまちをもっと魅力的に面白くしていきたいからこんな活動したいっていうことをやっていく必要があるのかなという認識から話を始めています。

自分たちが主体性を持ってやりたいことをやる仕掛けが必要だなという話があったり、また、いろんな取組が既に行われている、コロナ禍で夜間ハイキング、駄菓子まつり、打ち上げ花火みたいなことにも取り組んできたというお話があったり、行く行くは例えばイルミネーションができたらか、まちをきれいにできる取組、自転車マナーの向上みたいなこともやっていったらいいんじゃないかというような声があったりもしました。

一方で、嘆きっていうんでしょうか。生野区に比べて天王寺区はっていうような声ですね。家賃が向こうは10万こっちは5万、5万でもなかなか住んでくれる人がいない。そんなときに生野区はどうしていけばいいんだ。特に若い人、子育ての人に来てもらえる生野区にするにはどうしたらいいのかというような問題意識とともに、若い人が定住したいと思うようなプロモーションって何だろうということであったり、若い人がチャレンジしていける生野区、若い人の面倒を見るよっていうようなことを生野区でやっていくことはできないのだろうかというようなことを話し合ったりもしています。

一方で、この分野は多分カウンターパートが必要であると。区役所の取組ということをご説明いただきましたが、民間側でこれをしっかりと担っていくのは誰なのか。どんな熱量でそれをやるのかっていうような話にも議論は及んでいます。

空き家の話が出ています。空き家はいろんな取組をしている。では一体何件の空き家がどう活用されて、何が起きたのかっていうこと。その辺を問うていきたいなということもありますし、「いくのぐらし」というウェブサイトが紹介されましたが、あれを見たら、月に1回ぐらいしか記事がアップされてないぞと。じゃあもっともっと、いろんな地域に民間で次から次に地域の魅力を発信するウェブサイトってあるよねと。そういう情報発信ってどうやったらできるのだろうかみたいなことも話し合われていたりします。

そしてまた、ベンチマークというんでしょうか。生野に近いけれど、何でしょうか、衰退というよりも、何か元気を取り戻しつつあるんじゃないかこの地域はっていう事例として、布施の話ですとか、尼崎の話ですとか、神戸市の灘区の話、大阪市北区中津の話などが出てきていたりいたします。

どうすると、特に民間のカウンターパート、市民のカウンターパートを得て、その地域をより魅力的にしていこうと、熱量を持って動いていく人に集まってもらえ

るのかみたいなことを議論したりもしておりました。

一方で、実は鶴橋にはいっぱい人来てるじゃないか、そのことを忘れてはいないだろうかっていうこと。観光で人が来るっていうことと定住するっていうこと、ともにこの生野において大事なことだとすると、例えば観光でやってきて、それを定住につなげていくっていう仕組みができないだろうかということであったり、ピンポイントですが、生野南小学校でかつて生きる教育という教育の取組がなされてきて全国的に知られている。こういう教育をしている、こういう取組をしている生野というのは、子育てにとってとてもすばらしい環境なのではないか。これも生野の魅力発信ではないかと。そういったことがいろいろと議論をされておりました。以上です。

#### ○三木議長

ありがとうございました。ただいま、区役所からの説明と各部会からの報告がありました。

これから、委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから、学識委員を代表して山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしくお願いいたします。

#### ○山納委員

ご紹介いただきました山納でございます。

ということで、この全体会議の皆さんの発言を回していくような役割を今から果たさせていただきたいと思っております。1時間ぐらいしゃべる時間があるでしょうか。お一人当たり2分あまり時間があるのではないかと思います。

後ほど多分話があるかと思いますが、委員の改選があるということで、今年、令和5年度の第1回の全体会ではありますが、このメンバーで議論をするのが今回で一旦終了、最後ということになります。ですので、この一区切りにおいて、また2年間いろいろ議論を重ね、部会での議論というのも行っている。このタイミングで思っておられること、もっとこんなことをやっていくべきではないかということや、ここに残していただきたいと思っておりますし、ここにおられる委員の皆さんの多くは、まちづくり協議会とか地域振興会からの推薦で来られている方も多くおられます。ですから、この区政に関わって、区政をどうしていこうということを議論するとともに、それぞれの持ち場、地域での活動というのを担っている方々であると思いますので、その地域の活動について、こういうことが課題であるとか、その活動を続けていく担い手が課題であるとか、いろんなことをお思いではないかと考えています。その辺りをぜひ、この1時間ぐらいの時間の間に皆さんで共有できたらと考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ということで、ご発言いただこうと思っておりますけれども、あちらからもう順にマイクを回させていただいてよろしいでしょうか。

#### ○加藤委員

子どものことで、以前から学校の通学路の安全というので、いつも言ってるんですけども、生野西の生野未来学園の前の道、この間、水道工事が終わって、縁石の

ブロックがついて、白線がちょっと広くなったんですよ。車道を狭くして歩道を広くするという感覚だと思うんですけども、あれって本当に子どもを守れますか、あの線1本で。白線を、車道を狭くするんやったら、車に分かるようにポールなんか立てたほうが、もっと子どもを守れるかなと思うんですけどね。

○山納委員

それが危ないなとか、不十分だなんて感じるような局面がありましたか。

○加藤委員

縁石のブロックを新しくやって、ちょうどうちの前ですけど、自転車のペダルが2台ぶつかってました。

○山納委員

ぶつかっている、むしろ危ない。

○加藤委員

かえて危ないですよ、あれは。

○山納委員

なるほど。そういうことがあるんですね。

○加藤委員

ポールのほうが見やすいから、早く柵にしてもらったほうがいいですわね。

○山納委員

他、いかがですか。そんなところでよろしいですか。

○加藤委員

はい。

○山納委員

ありがとうございます。では、そのままマイクを回していただいて、森本委員お願いできますでしょうか。

○森本委員

私もこどもの未来というところでいろいろと一緒に考えさせていただいてますけど、やっぱり子どもを持ってらっしゃる保護者の方の相談窓口ということで集いの広場を開けたり、子育て支援センターをしたりとかしていますけど、来てくれる人は大丈夫なんですね、いろいろ話もしてくれるし。やっぱり来てくださっていないで、家の中でしんどいなと思ってらっしゃる方をどう拾っていけるかなというのが、いつも私たちの課題になっています。そこら辺のところは、地域の方々がいろんな方をご存じだったりするのかなと思うので、そのうまい橋渡しみたいなこととか、あそこちょっとしんどそうかなみたいなことの情報をうまくいただきながら、子育てを支援していくことができたらいいいのかなって思っています。

それと、学校も今、元気なのに休みたいというか、あまり学校に行きたくないと思うお子さんもずいぶんいるかなと思うのですが、その子たちも含めて、行きたくないような学校になればいいなと思っていて、それは生野区だけの課題ではないかと思うのだけれども、こども未来部会でも話が出ていたように、学力だけでなく、子どもが育つ場所っていうのは、やっぱりそういう学校だとかでしか寄る場所がないので、その場所がお互いを認め合えるような場になっていけばいいのになっ

て、そういうことができる生野区の学校だったらすてきかなって思ったりします。そこは学校の先生方ともうまい連携をしながらやっていけるといいかなって思ったりしています。簡単に行けるような話ではないですけども、皆さんと検討をしていながら、誰もが本当に暮らしやすいというか、生きやすい生野区になってくれたらいいなって願っています。

○山納委員

ありがとうございます。

ちょっと伺ってみたいところなんですけれど、しんどい状況にある子どもたちの話はこの資料にもありましたけれども、実際そういう人たちはいるけれどアプローチがしづらいとか、教育の現場などに子どもの居場所と呼べるところが十分にあるわけではないっていうのは、生野区の中でも現状としてあるのでしょうか。

○森本委員

そうですね。私たちがやっている子育ての場所に来てくれる人っていうのは、割と来て、それなりに悩みも言ったりするけど、まだまだ力のある人かなって思っているんですね。そういうところへ出てこれる方なので。でも出てこれない人がやっぱりしんどいかなって。それで出てこれない人を対象にということで、いろんなところでいろんな取組はなされているのかとは思いますが、そこに焦点を当てられるような場があればいい。

学校のことで行くと、例えば、学校元気休みの会であるとかいうようなところで、場は開けたりはしていますけれども、いろんな方がお互いに連携をし合って、今度あの子も行っていないみたいよとかいうので、ずるずるといろんな子が寄ってきたりしている。そうすると、学校がどうもしんどいねみたいなお話が出てきたりするので、割と学校に行っていないお子さんが、学校が把握なさってるかと思うのですが、一定数いらっしゃるんじゃないかなと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。それでは塚本委員、お願いいたします。

○塚本委員

塚本です。この区政会議も4年たちまして、任期満了ということになりますけれども、この4年間、最初の2年はくらしの安心・安全部会で、特に健康とか、地域医療とかっていう観点でさせていただきましたけども、生野区役所の方々も、健診とかいろんなことで工夫なさって、地域包括ケアシステムとかもちゃんとしっかり頑張っておられているのも分かりましたけど、残りのまた2年間ではこどもの未来部会で、特に小学校、中学校の教育について、私個人としても学習塾という立場で見えていましたが、生野区としまして、やはりこの4年間感じたことは、特に学力の向上を目指して、大阪市とされてましたけども、やっぱり学校を眺めてまして、中学校、小学校の問題ですね。中間、期末とかそういうのを見ましても、結構難しいんですね。公立の中学校とか小学校の子にこれはちょっとさすがに無理だろうというような問題もばんばん出されていて、学校の授業についていけない子が大分出てきてるんじゃないかなと思って、要は大阪市の塾代助成が全国で誇れるすごいツールだなと今感じておりまして、やっぱりこれ使わない手はないと思って、今

塾のほうにもネパールの中学生とか、いろいろ塾代助成を活用して、学校で分からないことを塾で教えてもらうっていうことが、やっぱり家庭でもなかなか教え切れない。そこに塾で勉強させてくれっていう子が、やっぱり希望が多いということなので、やはり生野区としても、これは学習塾だけではなくて、そろばんといいますか、いろんなジャンルで塾代助成が使えるということですから、やはりそこをもっと充実させて中学生、小学生のサポート、今度から5年生からも使えるようになりましたから、そこをぐっとやっていくと、今まで区として届かなかったいろんなことが民間のところで、一人一人、塾の講師なり何なりがサポートできる。そうすると小学校、中学校の先生方も、やはり取り残されていくのもすごく悔しく見ておられると思うんですけど、それでも教え切れないっていうところがあるので、そこを生野区として子育てとか、教育とか頑張ってるっていう姿がばっと大阪市内の中でも生野区が目立ってくれば、生野区に来てよかったとか、生野区で塾に通ってよかったとか、生野区にはこんなたくさんのいろんなジャンルの塾があるとかっていうことになってくると、かなり将来的にもいいのかなと思ったこの2年間ですね。ということで以上です。

○山納委員

ありがとうございました。大藤さん、お願いいたします。

○大藤委員

巽南から来させてもらってます大藤です。どうぞよろしくお願いします。

この4年間、一番最初から話させてもらってることは、中学卒業して高校を行ってしまって、行きたい学校に行かず、行ける学校に行ったことで退学してしまう生徒さんが結構いてはるということ。ただ、その部分を改革するということも大切なんですけども、辞めた後、すぐにアルバイトじゃなくて、仕事じゃなくて、復学できたりとか、新たな学校に通うことができるっていう、そういう再チャレンジできますよっていうことをしっかりと広めていただきたっていうのが私の希望だったんですけども、山口区長のときに、大阪市立の高校がある間は、本人の同意が得られれば、中学校のほうにもやめたことを通達していただけるっていうような話になってたんですけども、大阪市立の学校がなくなってしまって、その後はどうかってんねやろなっていうのはすごい興味を持って見てるんですけども、関心持ってるんですけども。やっぱりできることなら高卒っていう資格を持って就職していただきたい。やっぱり就職するためには高卒以上というのが圧倒的に多いので、その部分を何とか行政、それも行政だけじゃなくて地域も含めて、何とか守ってあげられへんかな、そういう方法はないんかなっていうので、この4年間、いろいろお話をしてもらいましたが、ちょっとでも改善したんかなっていうのは気になります。また何かそういうところがあったとしたら、教えていただければうれしいです。

それと、ここ最近、地域の行事によく関わらなあかんことがあって、見ている子どもたち、小学生対象の行事をすると、小学生を朝連れてきて、親御さんはそのままずっと帰るんですよ。半日のいうたら学童保育してみたいな、そういうイメージですよ。水鉄砲をして遊ばせたりとかいろいろ考えてる大人は一生懸命するんで

すけども、根本のところは、やっぱりそこに来てくれるお父さん、お母さんに残ってほしいなっていうのが思うところです。

地域でいろいろ話した中で、例えば、それは小学生対象じゃなくて、保育園とか幼稚園対象にすると親御さん帰りませんよね。その中でお手伝いしていただいて、コミュニケーション取れるようになったら、そのまま小学生になったとしても、小学校の行事になったとしても、お父さん、お母さんが手伝ってくれはることもあるんじゃないかな。そういう可能性もあるのかなって考えてます。

皆さんの地域ではどういうふうにお考えになっているのか、またそういう話をお聞かせ願えたら、私の地域に持って帰ってまた話してみますので、どうぞよろしくお願いします。

#### ○山納委員

ありがとうございます。では、廣川さん、お願いいたします。

#### ○廣川委員

まちの未来部会の廣川です。

暑くなってきましたが、皆さん元気ですか。元気出していきましょうっていうので、何を話したらいいかな。いろんな話ができるような会になってると思うんですけど。前回の部会の話で、民間でも動いている人たちがたくさんいるんだなっていうところがあって、夜のピクニックとかってめっちゃ最高のイベントやなみたいな。わくわくもするし、非日常空間やったりとか、そういうのを町内でやっているみたいなのを川本委員が言ってたのがすごく新鮮やったし、すごいすてきやなっていう、そういったところから子どもたちの何か広がる、豊かになる部分が、たくさんできていったらいいなっていうふうに思いました。あとは、やっぱり情報がまとまり切っていない部分を、どういうふうにまとめ上げていくのがいいのかなっていうところの話があって、これは結構重要なのかなって。生野で動いている人たちのまとめ方もそうだし、いろいろな情報をつかみ取りやすくすることが大切かなと。先ほど森本委員が言ってた、取り残されている人やったりとかって、何か行きづらいう感じのところで、いろいろと見えてない部分があると思ってて。ここの場所って私に合ってるかもしれないという情報をうまくキャッチできたら、じゃあ一歩踏み出してみようとか、そういうふうになっていけるのではないかと。情報からきっかけを得て、そこからフェース・ツー・フェースの、人と人のつながりになっていく、この流れをどうつくっていくかが大分重要なのかなと。

あと、私ごとなんですけど、工務店やっている中で、不動産の問題っていうのは結構ぶち当たることが最近多々あって、やっぱり相続関係ですかね。活用したいなと思う物件の一所有者に会ったんですけど、「相続登記されてないから」みたいな話をされることが多々あるので、そこらへんってどこのまちも抱えている弊害になってくるのかなと。相続登記が義務化されるので、そこら辺がどうなるのかなっていうのは、自分も興味を持って、関心を持っています。以上です。

#### ○山納委員

ありがとうございます。では北口さん、お願いいたします。

#### ○北口（英）委員

皆さんこんばんは。まちの未来部会の北口でございます。

私もまちの未来部会所属させていただいて2年間、右も左も分からないままいろいろ教えていただいて、何とかちょっとは分かるようになったとは思っているところです。でもまだまだ勉強不足ですけども、これから勉強していきたいと思っています。

またちょっと私が住んでる地域、巽東というのは、生野区の中でも一番ファー・イースト、一番東の端っこにあります。ある意味すごく高齢化が激しく進んでるまちでもありますので、いかんせんどうやって人をここから集めていくのかというのが難点であるんですが、この間の13日、14日、15日と、うちの巽地域で夏祭りが行われました。うちの場合は日にちが固定なので、土日開催になるときもあれば平日の開催のときもあるんですが、今回は曜日に恵まれまして、木、金、土という開催になったんですけども、ただ、13日の初日はやっぱりどうしても人は集まらない。14日の金曜日にちょっとぽつぽつ人が来出したんです。15日の土曜日はそれなりに、うちの地域には、矢柄という旧村の名前があるんですけども、矢柄にこれだけ子どもがおったんかというぐらいの子どもが集まってきたりするんですね。ということは、ふだんはほかの学校に行ってるけども、祭りやから、おじいちゃん、おばあちゃん、帰ってきてる子もいてるんですけども、そういう子たちがいずれ戻ってきてくれるような環境がもし作れるのならば、また巽東地域も人が増えていくのかなというのは思うんですけども、いかんせんなかなか出て行った人は帰ってきにくいというのがありますので、こういう方を何かの拍子で転換、おじいちゃん、おばあちゃんもちょっと高齢化したから、ちょっともう家も古いから建て替えて一緒に住むかというふうな気持ちになるような感じのまちづくりができればいいかなとは思っています。ただ、これがなかなか難しいなというので、お知恵があれば皆さんいろいろとお貸してください。よろしくお願いします。

#### ○山納委員

ありがとうございます。では古本委員、お願いいたします。

#### ○古本委員

まちの未来部会の古本です。よろしくお願いします。

今週の日曜日ですか、この間、町会のほうで花火大会いうのをやりまして、それで参加者が1,500人ぐらい、小学生とその親御さんとかいうことも含めて、帰りに参加者の中で、「またしてな。」と言っておられて、ものすごいええ企画やったなと、自分ではそんな印象を受けたんですけどね。そういったことも含めて、生野区に住んでみたいなというような人が少しでも増えていくような行事といえますか、そういったことを考えていくのもいいかなと思ったりしてるんですよ。

ちょっと、ころっと話変わるんですが、私個人的にね、自転車は車道という話ね。私は、もう年が79ですか、もう80ぐらいになりますけど、もうどない言うてええか、車道走ってるのがものすごく怖いように思うね。どっちにしたってゆっくりしかよう走らんもんやから、自転車は歩道のほうが、今までは歩道を走ってたのに、今度から車道を走らなあかんというような、それは強制やないにしても、何か後ろから



車に寄られたときに、はねられへんかなとか思ったりして、怖いような気持ちを持っております。例えば、中学生か高校生ぐらいの人が、僕らゆっくりしかよう走らんもんやから、ぱっと追い越すいうかね。実際は当たってへんねんけど、当たりかけいうんか、あっと思ってね。自分では自転車をサドルに座ったときに両足がつくように、両足がつくいうたら、比較的一番安全なと思ってるんですけど、そやけど急にぱっと前へ横切られたりされると、実際には当たってはせえへんねやけど、そのたびにこけるいうかね。車道と歩道と信号ぐらいになってくると、自分では両足ついてると思ってんねんけど、車道と歩道の高さが10センチか15センチぐらいあるもんやから、ちょっと僅かそのとき、こう行ったら車道へばんとこけかけたときあって、何かやっぱりそういうの怖いなとかいうようなことあって、何かそういう安全な方法があればとか思ったりしてるんです。

それと、私も町会の役員を長いこと続けてるんですけど、次の担い手いうか、なかなか育ってけえへんというか、町会の役員を代わってするよという若い人が出てけえへんもんやから、もしここでおられる方で、こういう方法でうちの町会では新しい若い子が入ってきてるよとか、協力してくれんねんということがあれば教えてほしいなというように思っている次第です。ありがとうございます。

#### ○山納委員

ありがとうございます。では宮崎さん、お願いいたします。

#### ○宮崎委員

御幸森の宮崎です。毎度お世話になってます。

まちの未来部会でいろいろ勉強させてもらって、いろんなことがありますねんけど、御幸森まちづくり協議会が、いかに大変なことを、いろんなことやってるかっていうことを1回みんなに聞いてほしいなと思ってね。

4月にさくらまつりをやりますねんね。ほいで8月の初めに盆踊りしてるんです。ほいで12月にはイルミネーションと餅つき大会をやってるんですよ。この後には必ず役員で食事会したり、役員懇親会をやったり、また役員でカラオケ行ったり。ほいで、御幸森小学校のあとのいくのパークのほうではヨガ教室を多目的室でやらしてもらって、御幸森会館では百歳体操をやって、いきいき教室があって、喫茶サービスがあって、食事サービスがあるんです。それから8月には、お年寄りに水を配って、水を配る目的じゃなくて安否確認のためにそういうことやって、9月16日は敬老の日のお菓子配って、2月にはお餅を配って、それでまだ御幸森神社を抱えてるから神社の祭りなんかにも顔を出させてもらって、ほんで、毎月、僕今日ちょっとこれに来てから出られへんねんけど8時から地域のパトロールでずっと回ってるんですわ、20〜30分程度ね。こんだけ活性化して、いろんな活動をやってるっていうのは、もう、僕この御幸森振興町会、御幸森まちづくり協議会が、こんなことを、みんな、各地域、各村、生野区だけじゃなくて、みんなやってたらすごいと思うわね。こんだけのことをやって、それで、こないだまた何か中川と御幸森の交流会をやるって、それで大池中学校をお借りしてやりましたんですけどね。もうほんまものすごいですよ、これ、どう考えても。役員が16名ぐらいしかおらんのですが、女性部と町会長と合わせてね。それでボランティア寄せても40人足らずで、も

うこんだけいろんなことやってるって、僕はどうか思わへんけど、みんな偉いなと思うてね。どう考えても偉いですよこれ。100%ボランティアでこんだけのことや  
り遂げて、毎年毎年やろうとしてるわけやからね。やっていってるわけやからね。  
こんなに活性化してる地域はちょっとないんじゃないかなと思って。そういうこと  
ですみません。

#### ○山納委員

ありがとうございます。区政の話をここはずっとしてきたわけですが、実は、  
地域、地域でこれだけの支えるための活動をしているっていうことは、認識として  
多分皆さんされてると思いますけれども、持っていただけだと思います。永松さ  
ん、お願いいたします。

#### ○永松委員

まちの未来部会の永松です。私は、生野地区、生野区役所のちょうど南側になり  
ますね。元生野小学校校区のまちづくり協議会から来ました。

何のお話をさせてもらおうかなと、皆さんのお話を聞きながらちょっと考えてい  
たんですけれども、私は、地域で広報委員として地域の取組をお知らせするのと同  
時に、子どもの居場所、子どもに向けた企画というのもずっとやってきましたので、  
その観点からまちの未来というお話をちょっとさせてもらおうかなと思います。

私は、生野会館、地域の会館ですね。もう長い間、もう9年目になりますかね、  
生野会館開放するデーというのをやっています。もともとは毎週水曜日に会館を開  
けて、屋根のある公園ですよぐらいの感じで、子どもたちにその辺で暑い中で遊  
んだり、雨のときに屋根のあるところで、公園の屋根のところで寄り集まって遊ぶ  
よりは会館の安全なところで遊びなよってということで開けてたのがスタートだったん  
ですが、コロナ禍になってそれができなくなりまして、じゃあどうすんのかってな  
ったときに、おもちゃを配ろうという話になったんです。とりあえず会館には継続  
して来てほしい。でも会館の中に入ってもらうことはできへん。じゃあどうしまし  
ようかっていったら、くじを引いて、くじに合わせて小さなおもちゃ、大体10円と  
か20円とかのスーパーボールであったりとか、もうちょっとしたものです。紙飛行  
機、組み立てのだったりとか、でも、それをずっとコロナになってから何年も何年  
も続けてみたら、とても参加者が物すごく増えたんです。今までただ会館を開けて  
ただけのときよりも来てくれる子どもの数がめっちゃくちゃ増えた。さらに、プラス  
ちょうど学校が統廃合になりまして、4地域が合体したという効果もありまして、  
生野地域だけではなく周辺地域のお子さんもたくさん来るようになった。そうす  
ると何が起こったかっていうと、小さいお子さんもたくさん来るようになったので、  
親がいっぱいついてくるようになったんですね。今まで来なかった若い世代の親御  
さんっていうのがすごく会館に来るようになったんです。それだけでもすごいなと  
思っていたら、今度は何かあったときに、ちょっと教えてほしいんですけどって言  
って質問してくださるようになったんですね。それがここ1年ぐらい続いていて、  
これはかなり大きな効果だなと。ちょうどコロナ5類になりまして、いろんなと  
ころでいろんな活動が再開したりとか、元の形に戻しようといっている中で、生  
野会館開放するデーに関しては、むしろこのコロナ禍でやってみた新しい取組をあ

えて継続しようという方向で今動いてます。それはやっぱりそれだけの効果をすごい感じましたし、実際に来てくれて、相談してくれてっていうところまで来ても、地域の活動に担い手として参加してくださるかっていうと、まだそこはとても難しいところやと思うんです。

それでも、この何年かかけたところで起こった変化っていうのは、その先の何年かでまた次の変化になると思っているので、とても長いスパンで見なくてははいけないことかもしれないですけど、継続していくということはとても大きいなと感じています。

ただ、学校の統廃合で大きな変化が起こって、続けられなくなったということもたくさんあります。その中の一番大きいなと思っているのが、地域の学校がなくなって、PTAと地域のつながりが明らかに薄くなったことです。今まではPTAという形で参加せざるを得んかなみたいなテンションではあっても参加してた世代っていうのが、地域の夏祭りの担い手として一切参加してもらえなくなりました。もちろん自主的にしてくれる人もいますけど、そういう人たちってもとともと学校が閉校する前に関わってた人がほとんどで、新しい世代っていうのは、正直じゃあやりますって手を挙げてくれる人はまだいてないです。それをじゃあここからどうやってつないでいくのか、これはとても大きな課題だなというのを今、リアルで、ちょうど夏祭りの準備をしてる最中ですけども、感じているので、これは多分、うちだけじゃなくてどこの地域でも起こっていることかなと思うので、大きな課題として検討していただけたらなと思います。以上です。

#### ○山納委員

ありがとうございます。それでは三木さん、お願いいたします。

#### ○三木議長

私のほうからちょっと2点ほど。

まず、町会の運営なんですけども、私は鶴橋連合の第8町会というところにおりまして、町会の役員、いろんな役員を兼務しておりますけども、町会の運営自体を考えますと、コリアタウンの真っただ中に私どもの町会がありまして、非常ににぎわいは増していいと、生野区にとってはいいと皆さん方捉えてるようですけども、町会の運営そのものから見れば、昼間は人は多いけれども、夜間はコリアタウンで住んでおられる方は非常に少ないと。しかも、経営者、オーナーは外部におられて、雇われ店長、あるいは雇われ店員で、コリアタウンのほとんどのお店がそういうふうになってると。したがって町会でいろんなことを、回覧文書を回したり、あるいは新しいお店ができて町会の入会案内に行っても、オーナーに伝えますとか、社長に伝えておきますというだけで、あとはもうなしのつぶてと、そういう状況が今あります。

それで、話は変わりますけども、9月、10月ぐらいで、また統計調査やるよということで、連合町会長のほうに案内がまいりまして、統計調査には何名必要ですということで、区役所のほうから連絡は頂戴しておりますけども、毎回この各種統計調査で配布いたしましても、コリアタウンのほうからはほとんど無回答と、いくら督促しても、連絡しておきます、オーナーに言うておきますということで返ってこ

ない。そしてしかも、2世、3世以外の方であれば、日本語そのもの、漢字交じりですので、調査資料そのものが読めないと、そういうような状況で、町会運営上は決して好ましいものではないというふうに私自身は捉えています。

それと、もう一点なんですけども、私の部会はくらしの安全・安心部会ということで4年間活動をさせていただきまして、常々思ってるのは、非常時の災害時はどう対応すればいいかということを考えておりまして、それで、7月の上旬に新聞で個別避難計画が未作成のところは4分の1あると。全国の市町村調査で完了してるのは1割満たずということで、災害時に、個別に体の不自由な方一人一人をどのようにして避難所に誘導するかというのは、おそらく町会の役員、あるいは各町会にいらっしゃる民生委員、主任児童委員が担うだろうと思いますけども、ほとんどの市町村が完了していないと、この個別避難計画が完了していないという新聞記事を見たんですけども、生野区ではどういう状況なのか、ちょっとお伺いしたいと思っています。以上です。

#### ○山納委員

ありがとうございます。回答が必要なことは後でまとめてお答えいただければと思っています。船方さん、お願いいたします。

#### ○船方委員

船方です。私も4年させていただいて、最初の2年はこどもの未来部会と今の2年はまちの未来部会に所属させていただきました。

毎回、全体会議のときに各部会から出た意見に対して区の考え方とか対応という形で回答があるんですけども、いつも最後の文章が努めてまいりますとか、進めてまいりますとか、図ってまいりますとか、そういう形で終わってまして、その後どうなってるのっていうのがいつも分からないなって感じてました。全体会議のときのスライドとかで、中には回答があるかもしれないんですけども、努めてまいりますとかで終わってしまってるような気もするので、その先のことがどうなってるかっていうのがもう少し具体的に事例を挙げて、こういった場所で説明とかをしていただけると、意見を出したかいがあるというか、報われるなと感じます。

あと、人材不足の話がどこの町会でも問題になってるってということなんですけども、まちの未来部会の中で人材バンクをつくったらどうかっていう意見もありまして、その中で、例えば住民登録をしてもらった方に人材バンクに登録してもらうようなセットのような形にして、イベントがあるときに、こういうのありますけどボランティアどうですかみたいな問いかけができるとか、そういったものがあればいいなと思いますし、あと、こども未来部会のほうで、助けを求める場所に来れる人はまだいい、そこまで届かない人の声をどう拾うのかが問題だとおっしゃってたと思うんですけども、確かにその場所を知ってる人とか、そういった人は自分で助けを求めることができるんですけど、やっぱりひとり親家庭とかになると、自分から助けを求めるっていうことが中には難しい方もいらっしゃるなので、例えばなんですけども、生野区民用の専用アプリみたいなものをつくって、そこに質問とかを入れれば、どういったことで困ってるのか入れれば、こういったことができますよとかいう形で、助けを求める窓口のほうにリードしていけるようなものがあれば

いいなと思います。最近、仕事とかでも、いろんなサイトで登録とかするときに、困ったときにAIチャットが答えてくれるっていうのがあるので、そういったような形で、困ってる人が何かを打ち込んだら答えが返ってくるようなアプリですとか、携帯がないと駄目な話かもしれませんが、そういったツールがない人には、例えば振興会館とか、憩いの家とかでそういったものが提供できるようなものがあると全体的なサポートが行き渡るんじゃないかなと思っています。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。橋野さん、お願いいたします。

○橋野委員

くらしの安全・安心部会の中川の橋野です。

今月の初めなんですけども、独り暮らしの女性の方のことについて、近所の方からご相談を受けました。食べ物とかを自分らのご厚意で配ってはったんですけど、家で転倒されたか何かでもう動かせない状態だからいうことで、私とこへ相談来られたんです。そしたら、たまたま私とこの熱中症にならないためにいうことで、ボランティアのコーディネーターとか、社福の方とかが回っておられたので、次の日に言ったら、すぐに保健師さんも来られて見てもらったら、これはもう危険やからいうことで、救急車も呼んで、無事に病院に入ってもらったんですけども、誰に相談したらいいかいうことが、ほかの人はあんまり知らないと思うんですね。だから、私とか、熱中症とかのときに、各社福からも相談があったらとかいうパンフレットを入れてるんで、高齢者に対して個人的にポスティングするようなシステムがあればいいのかなと思ってらんですけども。もう今回覧ではほとんど見られてないと思うんですね。だからもうちょっとみんなの目にとまるような方法があれば、見つけてほしいなと思っているんですけども、以上です。

○山納委員

ありがとうございます。では、小出さん、お願いいたします。

○小出委員

4年間くらしの安心・安全部会に所属させていただきました。防災訓練などに参加させていただいて、外国人の方が災害に遭われたときに、担当の受付などでパニックになったら困るということで、多言語化されたものを用意してほしいというお話を何度もお話してたんですけど、今回、避難所開設キットの中に5か国語の多言語案内指さしボードを配置していただきました。ありがとうございます。

それと、8月5日に5時30分から、アブロードインターナショナルスクール大阪校にて林寺盆踊り大会を開催します。コロナ禍でいろんな活動が制限されたり、中止になったりして、いろんなところで今まで顔合わせていた人とかも、全く会わなくなったりしたんですけど、やはり今ちょっとずつまちも動き出して、盆踊りをしたら、いろんな町会の方と顔合わせて、みんなで元気かどうかの確認もできますし、イベントっていうのは準備するまでが大変なんですけど、みんなで力合わせて頑張ろうということで開催させていただきます。よろしくお願いします。

○山納委員

ありがとうございます。では、川中さん、お願いいたします。

## ○川中委員

川中です。所属部会はないのですけれども、子育て支援、教育支援・環境づくりについて伺っていて思ったことを述べさせていただきます。

いろいろと取組が進んでいるということは分かったのですけれども、お伺いしていますと、子育て中の人々や子ども・若者は、支援やサービスの利用者といった「対象」として位置づけられている向きが強いなと聞こえております。確かにそうした支援やサービスを利用する存在でもありますけれども、同時に、支援対象という側面だけではなく、参画主体としての側面というものを強めていくということも考えられないかということをお願いしたいなと思っています。彼女ら／彼らの声を聴く、対話をして、そして反映していくというメカニズムをどう充実化させていくのかということです。非当事者が、「これがいいのではないか」「こうしたほうがいいんじゃないか」「こういうことを求めるべきではないか」と思っている、当事者からすれば「ちょっと違う」ということは、あることだと思います。教育の話でも「こんな学力中心でいいのか」という意見が他の委員から出ていましたので、じゃあ本人たちどう思ってるんだろうということです。そういうことをもっと聴いていくということがあっていいのかなと思います。

ここで重要なことは、聴取ではなく対話ということです。折しも今年度からこども基本法が施行されまして、子ども・若者の意見反映を進めていくことが大きな流れとなってきておりますので、生野がその先進的な取組を進めているのだとなっていくことが期待できたらなと思っております。

今回はこの期の全体会としては最後ということでした。今申し上げたこととも関連するのですけれども、子どもや若者、あるいは子育て中の人々だけではなく、幅広い人々の市民参加を、より一層広げていくことを考えていけたらいいなと、考えていただけたらよいなと思っております。例えば、出前区政会議みたいな形で、各委員が関わっておられる地域の居場所、あるいは活動拠点、学校等に出向いて、区役所と住民が対話をしていく、そういう場をつくっていくという形がより進んでいけばと願っております。以上です。

## ○山納委員

ありがとうございます。藪本さん、お願いいたします。

## ○藪本委員

こんばんは。くらしの安全・安心部会の藪本です。よろしくお願いします。

私、ここ数年前から不安に思っていることがあります。今年も十数年に一度クラスの豪雨災害が九州で、中国地方で、また秋田、東北のほうでありました。まだこれからも台風が控えています。このように、十数年前から線状降水帯ですとかゲリラ豪雨、ゲリラ豪雨っていいますと、もう5年以上前になるんですか。梅田のほうで大変な雨が降りまして、堂山の交差点付近ですか、水浸しになって、その周辺では排水溝から水が噴き出しているというようなこともありました。

私の住んでます東中川地区は、真ん中より少し東側を平野川分水路が南北に流れてます。そして、川の東側に2つの避難所があります。東中川小学校、東生野中学校、どちらも川の東側にあって、川の端にあります。豪雨災害というんですか、水

害の危機が迫っているときに、果たして川に向かって、あるいは川を越えて避難所に行くというのはどうなんだろうかと。また、川の端にある避難所が水害のときにちゃんと機能するのだろうか。そういうことを不安に思ってます。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。柴田さん、お願いいたします。

○柴田委員

くらしの安全・安心部会の柴田です。

私のほうは地域のお話をさせていただきたいと思います。うちの地域は、今年の頭、2月ですか、雪祭りっていう、コロナの中でしたけれども、やらさせていただきました。ここ数年全くそういう祭り関係ができなかったんですけども、もうやろうということで、今年になってやらさせていただきました。それと、あと8月20日サマーフェスティバル、盆踊りの形を変えてという形でちょっとイベントのほうをやらさせていただいてるんですけども、若い人の担い手という話もありましたけども、私たち小学校を使わせていただくんで、PTAの方々と必ず打ち合わせをさせていただくんですけども、ここ2、3年もう全くそういうイベントがなかったので、もうPTAの方々が、全くイベントをやられた方がみんなご卒業されてしまって新しい方が入られてるんです。多少、2、3名は残っていただいているんですけども、ほとんどの方はイベントの経験がないという方たちと打ち合わせをしないといけないということになりました。あらためて一からイベントのやり方、進め方等々、皆レクチャーさせていただいて、これからまた継続して行って、PTAとの関係を構築していくという形をつくっていくといけないのかなと思って、それも校長先生、教頭先生も変わっていかれるので、校長先生、教頭先生も今年の2月の雪まつりは、こんなに人来るんですねとか、校長、教頭が驚いているという状況下の中で開催したという形になったんですけども、担い手、うちらはどっちかというと小学校統廃合等は関係のない、関係ないわけじゃないと思うんですが、ちょっとまだ先の話になると思うんで、ずっと小学校のほうでやらさせていただく。もちろんPTAの方々は若い担い手という、その担い手の人たちになると思われるので、これからまた関係を構築して行って、次のまちづくり等々の委員さんになっていただけたらなと思ってやっております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。では北口さん、お願いいたします。

○北口（充）委員

くらしの安全・安心部会といたしまして、11月12日に実施されます生野区災害想定訓練を非常に楽しみにしております。避難所に足を運んでいただき、その後、自助、共助に対する考え方や、それでどのような成果が出るのか、また、どのような反省点が出てくるのか、そして、次年度以降開催も実施していただいて、より多くの区民の方の参加があり、無事開催されることを願っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

1周いたしましたけれども、幾つか区政に関する質問、ご意見があったかと思い

ます。もしお答えいただけるようでしたら手短にお願いしたいと思います。

○筋原区長

生野区長の筋原です。

個別避難計画のご質問、三木委員からいただいたと思います。個別避難計画につきましては、令和7年度末までに全国でつくるということになっております。生野区でも昨年度から取組を始め、昨年度は北鶴橋の地域がモデル地区としてつくって、今年度中に18地域全てで形づくるということを目指しております。その方法なんですけれども、個別避難計画というのは、具体的にいうと、災害時に支援が必要な高齢者の方や障がいをお持ちの方お一人お一人のカルテとイメージしていただいたら分かりやすいと思うんですけど、お名前があり、そこに障がいや、いろいろその方のご事情が書いていて、また、その方を誰が支援するかというのを書く欄があります。ただ、それは、この個人がこの個人を支援するというところまでいきなり決めていくというのはなかなか難しいので、通常は、どこの組織が、例えば何々連合、何々町会の何々班とかが支援をするというところまでを書く。そして、また、実際にどの場所に避難するかということも、地図で落とし込むという形になっております。

それで、具体的な方法で言いますと、毎年、支援が必要な方の名簿、要援護者名簿というのが年に2回更新されてこちらに来ておりまして、それについては、毎年区社協のほうで、災害時に備えて支援が必要な方に、個人の情報を地域に出してもいいですかという確認を取るわけですけども、それで了承していただいた方について、その中でも特に優先的に支援が必要な要介護4以上であるとか、また障がい者1級以上とか、そういう特に優先度の高い方についてピックアップしまして、区役所のほうで、大体年末ぐらいまでにお一人お一人の個別避難計画、カルテを区役所でつくります。それを各地域にお渡しして、チェックしていただくという手順で、まず第1弾として優先度の高い方の個別避難計画を今年つくると。それで、地域によりましては、今、区社協の方が中心となってワークショップをしまして、各地域でもいろいろな独自の情報、地域名簿をお持ちの地域もありますので、そういう皆さんがをお持ちの情報をワークショップで地図に情報を落としてつくっていくような取組を進めています。そういう独自の地域名簿化をお持ちの地域に関しましては、その地域名簿を区役所でお預かりして、それを使った個別避難計画もおつくりして、併せて今年度、今年の年末ぐらいまでにお渡しするという事で考えております。これはまず第1弾の段階でございますので、当然これはそういう名簿が、個別避難計画が、そういうカルテができただけではまだ不十分で、やはりそこから次の段階として、どう日頃から顔の見える関係をつくっていくかということが大事になってきますので、そういうのを、また区社協のワークショップ、そういういろんな動きとも連携して、また翌年度、翌々年度と年度を重ねて順次進めていけたらと思っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

一巡いたしまして、もうそろそろ終わろうと思いますけれども、2年間ファシリ



テーターをさせていただきました。皆さん一人一人にしゃべっていただくということにこだわって、聞き合うというんでしょうか、区政に関して皆さん一人一人がどう思ってるのか、より課題だと思ってるのはどこなのかっていう話とともに、今日はちょっと広げさせていただいて、それぞれの皆さんの足元、地域はどうなっているのか、どんな課題を地域では抱えてるのかというところまで含めて協議をさせていただきました。区政そして地域を担っている地域振興会、そしてまちづくり協議会が両輪となってこの生野をよくしていくという活動を引き続き続けていけたらなと願っているところでございます。

ということで三木議長にマイクを戻したいと思います。

○三木議長

山納委員ありがとうございました。

それでは、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席いただいております歴代の議長等を務められました皆様から何かご意見がございましたでしょうか。

○多田様

私、社会福祉協議会のほうの会長もしておりますので、皆さんにちょっとお尋ねしたいんですが、地域包括という言葉をご存じの方、手を挙げてください。ありがとうございました。これ全員が知ってほしいんですね。地域包括というのは非常に地域の高齢者の見守り、だから地域で困ったことがあったときは地域コーディネーターを通じて、地域包括でつなぐことによって、その困り事を解消するという制度です。これを完全にパーフェクトにできれば、孤独死とかそういうのがなくなる地域の高齢者の見守り制度なんですよね。非常に大切な制度なんですけど、これが全員の皆さんに周知されていないということは、私たちのPR不足かと思うんですけど、これも区役所を通じて地域包括の在り方をもっと地域の住民の皆さんに周知していただきたいと思います。

それともう一つ、皆さん、私オンデマンドのほうの委員としても、大阪市のほうに出ておりまして、オンデマンドの現状をお話しさせていただきます。

今現在、オンデマンドの利用率は頭打ちです。なぜかというと、生野区内には4台のバスしか走っておりません。現在、増車をしてくださいということで増車していただきました。ところが運転手がいなくて、人手不足です。車はあるんですけど運転する運転手がいなくて4台しか走っておりませんということです。タクシー業界もオンデマンドに対して、最初は、このオンデマンドの初めは高齢者福祉的な要素のあるバスだということで最初出発したんですけど、これが2年間、3年間の実験で高齢者は5%ぐらいしか乗ってないです。あとほとんどが40代、50代の方が利用されていると。だけど、これは地域の中での足としての位置づけを実証したと。タクシーは地域外へ出れますが、オンデマンドは生野区内しか走れないんですね。そういう限定があって、いわゆるワンメーター圏内はオンデマンドが走っていると、タクシーはそれ以上の地域外へも走りますということで、タクシー業界との話合いの中では、オンデマンドを続けてもらおうと問題が大きいからやめてほしいというのがタクシー業界の判断ですけど、今現在、タクシー業界も運転手不足ということで、タクシーもなかなかつかまえることできないという状況ですので、オンデマンドを

継続可能な事業として私たちも続けていく、進めていく気持ちであります。これも社会実験という形で現在は進んでおりますけど、この実験はいつまでやるんかということがこの9月に結論が出ると思います。私たちも継続可能な事業としてオンデマンドを進めていく覚悟でありますので、それは委員会での決議ということになると思いますけど、これ私約束できませんけど、努力はしますけど、継続可能かどうかというのはこの9月の会議で決まるということになります。以上です。

○三木議長

ありがとうございました。

○田中様

私も一つの連合をお預かりしている1人として、安心・安全という言葉はよく使わせていただきます。実際に、今皆さん方がおっしゃってるように避難訓練、あるいはワークショップや研修会、またいろんな避難所開設訓練等々をやらせていただいております。そこで、今学校にあるスピーカーなんですけど、Jアラート連絡は入るということなんですけど、今年度はまだ2回の放送ということやったんですが、2回とも中止になっておりますけども、我々地域の中で学校から離れてるところでは一切聞こえない。これはもう大変なことで、近くの方だけは確かに聞こえておるようでございますけども、ちょっと離れると分からない。そしたら安心・安全部会という形で我々もつくってますけども、ほんまに安心・安全なんか、いざいうときにはどないして逃げたらええねやとか、聞こえてけえへんかったらどうしようという不安の声も聞こえてくるわけなんですけど、たまたま議員の先生方もおられますんで、ちょっとお願いがあるんですけども、できることならスピーカーはなかったも僕らはいいいと思うんですよ。音で教えてほしい。地域連動型警報装置みたいながあれば、これが鳴ったらみんなどこかへ逃げないかんのやなということが分かるようであれば、一斉に皆中からも飛び出してくれはるかも分かりませんし、出てきはった人に対しては、地域の間が今動いたらいかんよ、ここへ来てくださいよという指導はできると思うんです。とりあえず出てきてもらわんことにはいかんのかなと思っておりますんで、ぜひ分かるような方法で地域の皆さんに伝えていただく方法を考えていただけたらなと。特に生野区はモデル地区でもいいんで、ぜひ生野区先導でやっていただけたらうれしいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○三木議長

ありがとうございました。そのほか、何かご意見等がございましたら。

○和田様

勝山の和田と申します。

7月8日、9日と4年ぶりに夏祭りを開催しました。4年ぶりということで、準備等も非常に大変で、人も集まるかどうか不安やったんですけども、本当に多くの子どもに集まっていたいて、一時には100人を超す集団が宮入りをするというような、非常に大盛況で終わることができました。いろんな工夫もしたんです。飲食はやめるとか、アルコールは運営中はやめようとか、いろんな規制をやった中でも非常に多くの子ども、子どもが来れば大人も参加していただいて、やりがいのあった行事だなと思ってます。

先ほど、どなたか町会の運営に若い方参加するのどうしたらいいんやろうという  
ようなお声あったと思うんですけど、やっぱりこうやって地元でいろんな行事をす  
ると、子どもが参加していただいたら親も参加する、やっぱりそうやって顔も覚え  
る、挨拶もする。本当に特効薬というのではないと思うんですけど、一つ一つ行事重  
ねることによって、何となく町会の運営というのを分かっていただけのかなとい  
うことがちょっと今回、夏祭りやって確信できたという出来事があったということ  
です。以上です。

○三木議長

ありがとうございました。

○新井様

中川の新井です。よろしくお願いいたします。

生野区をよくしていこうと手をつないでくださる人たちが増える一方で、モラル  
に欠ける方も多くなってきて、毎回言わせてもらってるんですけども、空き地が一  
つできると、本当にそこにごみが捨てられて、あっという間に粗大ごみの山になる  
ところが多く、また道路の表示の消え方がひどくて、交通ルールが守れなくなっ  
てる方も多。あと、マスク着用が減ってきたのはいいんですけども、その分タバ  
コのポイ捨てとかが多くなって、吸い殻のごみが増えてきているように思います。  
あと、マスクを取って顔が見えるようになったのに、携帯のながらスマホとかもま  
だ多く、本当に挨拶を交わせるような関係性がいつまでも築けない。本当に誰と  
も挨拶を交わせるような、そんないいまちが築けるようになっていきたいなと日頃  
から思っています。

あと、ちょっと少し細かい話なんですけども、家の横にある側溝なんですけど、  
側溝を掃除しないために、そこに土がたまって草が生えてきて、大雨降ったりと  
かしたら水が流れなくなって多分あふれると思うんですね。本当にそこに草が生え  
てきて、花が咲いてるって喜んでる方もいらっしゃるんですけど、ぜひ掃除して  
いただきたいなと思っています。

あと、自転車は必ず体に合った自転車を選んであげてください。年齢を重ねる  
ごとに、本当に皆、電動自転車とかも多くなってきていますので、やはり年齢を  
重ねられた方は、必ず両足がつく自転車に乗っていただくように皆さんでお声  
がけしながら安全・安心を守っていききたいと思います。長くなりました。

○三木議長

ありがとうございました。

○伊藤様

皆様お疲れさまでございます。この前うちの地域でありましたことをちょっとお  
話させていただきます。

生野区はご存じのとおり外国人の方が多いということですが、この前、新  
今里公園で237子ども夏祭りが開催されました。これは近くで子ども食堂を  
なさってる方が、後援団体の方々と、主催で夏祭りをなさいました。それに私  
たち東中川の地域まちづくり協議会の一事業の方がタイアップをいたしまして、  
子育て支援という形でさせていただきました。そうしましたら公園自体が、もう  
ここはどこだと

いうぐらいたくさんの外国の方々がお越しになり、自国の言葉でお話し合いをなさり、すgoいい顔をされておりました。そういう形で、外国の方だからっていうので、いろいろと話はできないというのではなく、やはり何かでタイアップをしていくっていうことで、外国籍の方と一緒にまちづくりができたらいいなと思った次第です。ですから、担い手不足っていいですけども、そういう外国の方々の力も借りていくっていうことを今後考えていかなきゃならないのかなっていうのを思いました。以上です。

#### ○三木議長

ありがとうございます。それでは事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

#### ○杉本区政推進担当課長

委員の方をはじめ、皆様お疲れさまでございます。

それでは事務局のほうから2点ご連絡をさせていただきます。

まず、1点目といたしまして、今年度の区政会議の開催時期等のスケジュールにつきましてご案内させていただきます。参考資料2として配付してございます「区政会議年間スケジュール」をご参照ください。スケジュールで申しますと、本日は今年度の上半期における第1回目の区政会議となりまして、次回、第2回は、今年度の下半期、11月頃から来年2月ごろにかけて各部会と全体会の開催を予定してございます。その際に今年度の生野区の取組の途中での振り返り、それを踏まえての来年度の予算と区の取組内容の案についてお示しして、ご意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

続きまして、2点目といたしまして、委員改選についてご案内いたします。

参考資料3として配付してございます「区政会議の委員改選について」をご覧ください。先月行われました各部会でもお知らせいたしました、本市の区政会議の条例によりまして、委員の皆様の任期が一旦本年9月末までとなつてございます。10月以降の委員の選定について、現在地域からのご推薦をはじめとして手続を進めているところでございます。そのため、資料裏面にもございますように、全体会におきましてのこのメンバー構成では、本日で終了となつてございます。

つきましては、この度、2期4年、任期満了にて退任される委員を代表いたしまして、恐れ入りますが、三木議長及び船方副議長からお一言ずついただければと思います。

それでは、最初に副議長を務めていただきました船方委員、よろしくお願いしたいと思います。

#### ○船方委員

皆さん、お疲れさまでした。4年間区政会議に参加させていただいて、最初の頃は本当に行政の仕組みとか全く分からなくて、求められてるものに対して、自分が対応できてるのかっていうのがすごく不安で過ごしてきて、今でもそうなんですけれども、発言する内容も、行政のことが分かってなくて、突拍子もないことであつたり、実現不可能そうなこととかを話してしまつたりとかして、それでよかったのかどうかと、毎回区政会議が終わるたびに反省をする日々でございました。

ただ、でもこの4年間区政会議に参加させていただいて、今まで自分の地域のこ  
としか考えられなかった自分が、区全体のいろんな問題について触れられて、考え  
られるようになったということは、大きな経験をさせていただいたと思います。

これからも自分なりにいろいろ考えて、生野区のために何ができるのかっていう  
のを考えてやっていきたいなと思います。本当にお世話になりました。ありがとう  
ございました。

○杉本区政推進担当課長

それでは、最後に議長を務めていただきました三木委員、よろしくお願いします。

○三木議長

退任に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今、参考資料3の裏側に現在の委員さんの一覧表がございますけども、30名の方  
がいらっしゃいます。このうち、まち協からの推薦委員が今回9名、それと公募委  
員が1名、幹事委員が1名、計11名の方が2期4年間満了で退任をされます。4年  
間本当にお疲れさまでした。

私は、この2年間につきましては、議長として、また、その前2年間につきまし  
ては、くらしの安全・安心部会の部会長として務めさせていただきまして、その間、  
皆様にご協力、またご指導いただきました。誠にありがとうございました。

この4年間のうち3年ほどにつきましては、新型コロナウイルス感染症のために、  
部会あるいは全体会の開催が危ぶまれたりしたこともございましたけども、事務局  
の方が安全対策としてアクリル板の設置等、ご尽力いただきましたことにつきまし  
て厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますけども、本日ご出席の皆様のご健康、またご活躍、区政会議のさ  
らなるご発展を祈念いたしまして、雑駁ではございますが、退任のご挨拶とさせて  
いただきます。どうもありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

事務局からの連絡事項は以上となってございます。

議長よろしくお願いします。

○三木議長

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

本日またたくさんの貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

ちょっと幾つか、先ほど説明してなかったことで申し上げますと、藪本委員から  
水害時の避難所の機能をするかどうかということでご意見ございました。これにつ  
いては、実は先般、豪雨のときに急速に平野川の水位が上がりまして、危険な状態  
になったので、急遽全小学校と小学校跡地に避難所を開設したということがござい  
ました。ただ、通常水害の場合は、警戒レベル3で高齢の方等の避難に時間がかか  
る方が避難、また避難レベル4で全員避難ということになるわけでございますけど  
も、水害の際の避難というのは基本的にはご自宅の2階以上に避難をしていただい  
ければいいということでございますので、決して必ず避難所に行かなければならな  
いということではございません。豪雨の際、例えばおうちのほうで非常に雨漏りがす

るとか、何か、例えばお一人でおうちでおられるのが非常に不安であるとか、そういう個々の事情のある方で、避難所に来ていただくという場合はあるんですけども、基本的にはご自宅の避難のほうで安全でございますので、それが基本ということになっております。ちなみに、前回の避難所を開けたときには、全部の避難所でも、来られた方はお二人で、一時的に、一定時間避難されただけでまたお帰りになられたという状況でございます。

それから、あとコリアタウンが、今、年間200万人お客さんが来られておられて、もう今、京セラドーム球場に1年間来られる方と同じだけ来られて、多分大阪市の中でも本当に1番活気を呈している商店街になってと思うんですけども、先ほどもお話があったように、にぎわいはよいんですけども、一方で安全対策でありますとかトイレの問題、ごみの問題、また駐輪の問題であるとか、いろいろな課題も出ておりまして、ですので、これについては、去年も不幸な痛ましい死亡事故が1件あって、それでコリアタウンの通行規制を朝の10時から今、夜6時までは車両が入れないようにしておるわけですけども、そのような安全対策とにぎわいづくりの両方を何とか成立させるために、警察や消防や関係諸機関と、それからコリアタウンの商店街、また我々区役所の行政、そしてまた地域の方も入っていただいて、そういうコリアタウンの安全とにぎわいをどうやっていくかという協議会をこれからぜひ立ち上げて議論をしていきたいと思っております。そしてその中でコリアタウンの中のお店の方々と、また地域の方々との交流も進めていければとも思っております。そしてまた、今コリアタウンについては、例えば御幸森の第2公園にトイレをコリアタウンの商店街が設置されましたけども、これも非常に高額な経費がかかっておるわけでございますけども、これは実は、韓国の行政関連機関のほうから支援を大分いただいてできたと聞いておりまして、今韓国総領事館のほうからも、コリアタウンに対しては非常に注目もしておりますし、応援もしたいということで、支援もしたいということでもお言葉いただいておりますので、これから我々行政側も韓国の、生野区は済州島ご出身の方が多くいましてでございますけども、例えば済州島と生野区の行政同士の結びつきも強めて、経済交流の、そういう例えば覚書をつくるとかということで連携をしながら、相互に協力し合いながら、いろいろなまたコリアタウンへの、また韓国本国からの支援や投資も呼び込んでいけたらなと思っておりますので、これを今検討しているところでございます。

それから、若い方にどう参画していただくかということでは、これは本当に大きい課題でございますけれども、生野区には府立の桃谷高校と、府立の大阪わかば高校という2つの高校がございますけど、桃谷高校は通信制と単位制の唯一の大阪府の公立高校です。大阪わかば高校は、昼と夜の単位制がある高校で、特に大阪わかば高校では、外国人の生徒さんも非常に多く通っておられます。川中委員からも、そういう子どもたちの参画主体としての声を聞ければというご意見もありましたけども、去年、大阪わかば高校の10か国ぐらゐの生徒さんが区長に直接まちづくりの提言をしたいということで来られたことがございまして、これは日本に来て間もない、まだ日本語もあまりお上手でないぐらいでしたけど、非常に率直な、素朴なご意見で、非常に参考にもなり、またそこからいくのパークの、森本委員の多文化ふ

らっととの協働の取組で、自分たちの母国語で絵本の読み聞かせを生徒たちがするというようなイベントもできて、そういう外国籍の若い方との関わりもこれから増やしていける。それで、そういう子どもたちがまた自分で生野区内でお店を持ったり、働いたりということで、伊藤委員からも、外国の方との共生も大事というご意見もありましたですけど、そういうような形も含めていろいろな方法で新しい担い手をつくっていくと、関わりを増やしていくということが大事なかなと思っております。

それで、その関わっていただく方法としましては、船方委員の人材バンクのお話もございましたし、また、有償ボランティアとか、多様な方法をこれからも検討しまして、いろんな形でたくさんの人に関わっていただけるようにしていきたいと思っております。本当にたくさんの意見を本日もいただきましてありがとうございます。

また、本日これが最後の区政会議となられる委員の皆様方には、本当に4年間大変貴重なご意見をいただき、区政のためにご尽力を賜りまして本当にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

本日は、令和4年度生野区の取組振り返りについて、委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様方に本日の会議の様子をお伝えしていただきたいと思います。

それでは、これにて本日の区政会議全体会を終了いたします。委員の皆様、大変お疲れさまでした。

(閉会)